英文法 L01 第 27 講 助動詞・二重目的語を含む受動態

学習目標

助動詞や目的語が 2 つある文を基に、受動態の基本形を判断することができる。

1. 助動詞を含む受動態

助動詞を含む受動態の形

受動態は、動作を受ける人や物を主語にして表す形である。基本の形は「be 動詞＋過去分詞」だが、助動詞を使う場合は次の形になる。

助動詞＋be＋過去分詞

助動詞の後ろには動詞の原形を置くため、be 動詞は主語の単数・複数に関係なく、原形の **be** を使う。

助動詞と受動態を組み合わせる

まず、助動詞のない受動態と、助動詞を使った受動態を比べる。

Pair 1

The door is opened every morning.

そのドアは毎朝開けられる。

Pair 2

The door can be opened.

そのドアは開けることができる。

最初の文では、主語が単数の The door なので、be 動詞は is になっている。

一方、2 つ目の文では、can の後ろに原形の be が続き、その後ろに open の過去分詞 opened が置かれている。

このように、助動詞が加わっても、**動作を受ける対象が主語になる**という受動態の基本的な関係は変わらない。

助動詞	受動態の形	基本的な意味
can	can be opened	開けることができる
must	must be opened	開けなければならない
will	will be opened	開けられるだろう・開けられる予定だ
should	should be opened	開けるべきだ

can は可能、must は義務、will は未来、should は助言や「〜するべきだ」という意味を表す。受動態にするときも、それぞれの助動詞が持つ基本的な意味を保ったまま、後ろを be＋過去分詞にする。

実際に、動作をする側を主語にした文から受動態へ変えてみる。

Pair 1

They will repair the bridge.

彼らはその橋を修理する予定だ。

Pair 2

The bridge will be repaired.

その橋は修理される予定だ。

最初の文では、They が修理する側であり、the bridge が修理される対象である。

受動態では the bridge を主語に移し、will の後ろを be repaired にする。修理する人を特に示す必要がなければ、by を使った表現は省略できる。

助動詞を含む受動態の判断

助動詞の後ろは、主語が単数でも複数でも **be＋過去分詞** になる。

例えば、can be opened の be を is や are に変えたり、過去分詞の opened を原形の open に変えたりしない。

2. 目的語が 2 つある文の受動態

二重目的語とは

二重目的語とは、1 つの動詞の後ろに目的語が 2 つ並ぶ形である。

give を使った基本的な文では、動詞の後ろに「受け取る人」と「渡す物」を置くことができる。

give＋人＋物

この講では、give を使った文に限り、受動態への変え方を考える。

人を主語にする形と物を主語にする形

次の文では、Emma が Ken に本を 1 冊渡した。

Pair 1

Emma gave Ken a book.

エマはケンに本を 1 冊渡した。

この文の目的語は、受け取る人を表す Ken と、渡す物を表す a book の 2 つである。

give の基本的な用法では、この 2 つの目的語のどちらかを主語にして受動態を作ることができる。

人を主語にする場合

Ken を主語にすると、次の形になる。

Pair 1

Ken was given a book by Emma.

ケンはエマから本を 1 冊渡された。

Ken を主語に移し、gave を was given に変える。a book は given の後ろにそのまま残る。

物を主語にする場合

a book を主語にすると、次の形になる。

Pair 1

A book was given to Ken by Emma.

本が 1 冊、エマからケンに渡された。
a book を主語に移し、gave を was given に変える。この形では、受け取る人を to Ken で表す。

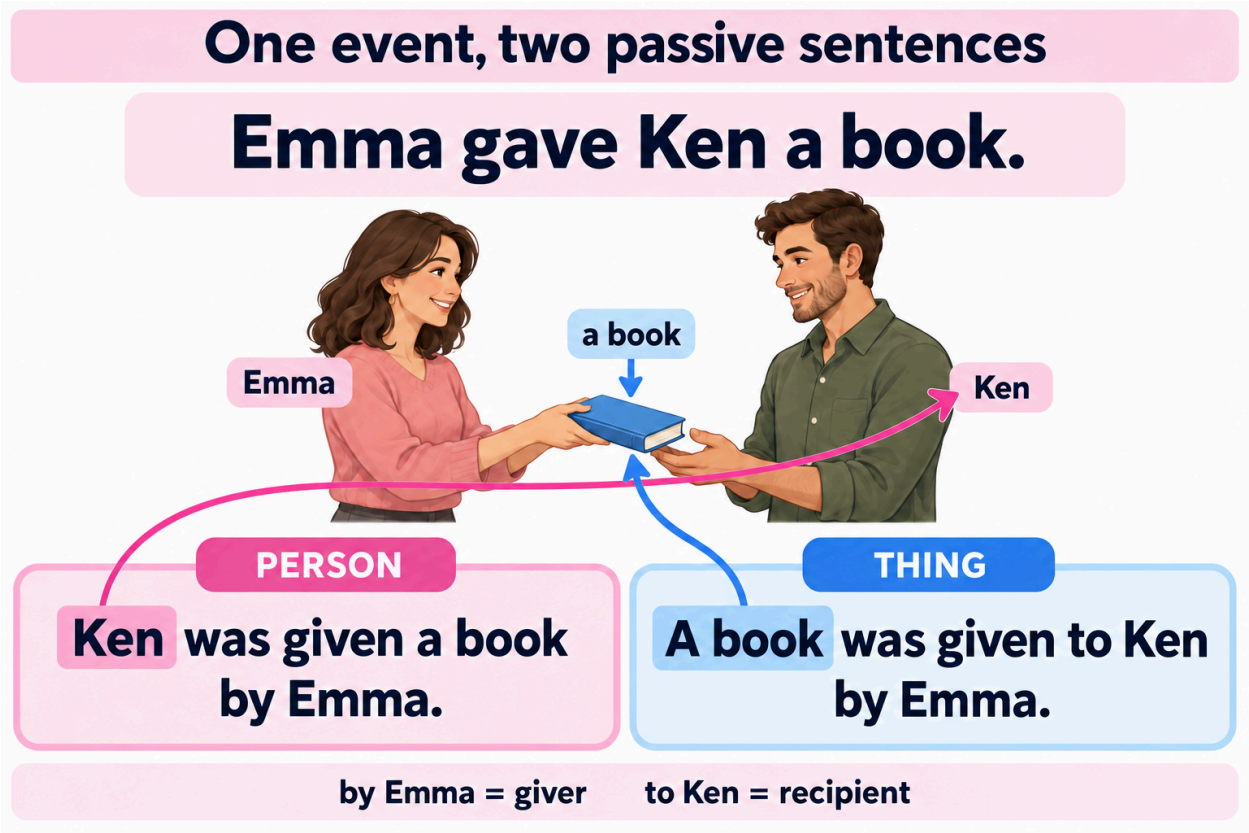


図 1　同じ出来事を、人と物から述べる

図題の One event, two passive sentences は「1 つの出来事、2 つの受動態の文」という意味である。PERSON（人）は Ken に注目する形、THING（物）は a book に注目する形を表している。どちらも、Emma が Ken に本を渡したという同じ出来事を述べている。図中の giver は「渡す人」、recipient は「受け取る人」を意味する。

ここで、**by と to の役割の違い**に注意する。

by Emma は「エマによって」という行為者、つまり動作をした人を表す。一方、to Ken は「ケンに」という受け手を表す。

物を主語にする形では、受け手を to Ken で示し、渡した人を示す場合には by Emma を使う。どちらも人を表す語句だが、役割は異なる。

give の形をほかの動詞にそのまま当てはめない

ここで学ぶのは、give を使った基本的な二重目的語の受動態である。

目的語が 2 つある動詞でも、すべての動詞が give と同じように両方の目的語を主語にできるわけではない。ほかの動詞については、それぞれの語法を確認する必要がある。

例題

1

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

The theater seats must (　　) after each show.

A. cleaning

B. are cleaned

C. be cleaned

D. cleaned

解答・解説

正解：C

まず主語は The theater seats で、座席は掃除される対象である。したがって、受動態を使う。

must は助動詞なので、その後ろには原形の be を置く。さらに、clean を過去分詞の cleaned に変えるため、must be cleaned が正しい。

Pair 1

The theater seats must be cleaned after each show.

劇場の座席は、毎回の公演後に掃除されなければならない。

A. cleaning は現在分詞であり、must の直後に置いても受動態にはならない。

B. are cleaned は助動詞のない受動態の形である。must の後ろには are ではなく原形の be を置く。

C. be cleaned は「be＋過去分詞」の形なので正しい。

D. cleaned は過去分詞だが、受動態に必要な be が抜けている。

2

次の英文と同じ出来事を、Leo を主語にした受動態で表す場合、最も適切な文を選べ。

Mia gave Leo a new notebook.

A. Leo was gave a new notebook by Mia.

B. Leo was given a new notebook by Mia.

C. Leo was given to a new notebook by Mia.

D. Leo were given a new notebook by Mia.

解答・解説

正解：B

元の文では、Mia が渡す側、Leo が受け取る人、a new notebook が渡される物である。

Leo を主語にするため、gave を was given に変える。物を表す a new notebook は given の後ろに残し、渡した人は by Mia で表す。

Pair 1

Mia gave Leo a new notebook.

ミアはレオに新しいノートを 1 冊渡した。

Pair 2

Leo was given a new notebook by Mia.

レオはミアから新しいノートを 1 冊渡された。

A. was gave の gave は過去形である。受動態では過去分詞の given を使う。

B. was given a new notebook by Mia は、Leo を主語にした正しい受動態である。

C. was given to a new notebook では、to の後ろにノートが置かれ、レオがノートに渡されるという不自然な関係になる。受け取る人を主語にするこの形では、given の後ろに a new notebook を置く。

D. Leo は単数なので、be 動詞の過去形は were ではなく was を使う。

©ミライコーチング

3

次の英文と同じ出来事を、A ticket を主語にした受動態で表す場合、最も適切な文を選べ。

Nora gave Ben a ticket.

A. A ticket was given to Nora by Ben.

B. A ticket was giving to Ben by Nora.

C. A ticket were given to Ben by Nora.

D. A ticket was given to Ben by Nora.

解答・解説

正解：D

元の文では、Nora が渡した人、Ben が受け取った人、a ticket が渡された物である。

物を主語にするときは、A ticket を文頭に置き、gave を was given に変える。そして、受け取る人を to Ben、渡した人を by Nora で表す。

Pair 1

Nora gave Ben a ticket.

ノラはベンにチケットを 1 枚渡した。

Pair 2

A ticket was given to Ben by Nora.

チケットが 1 枚、ノラからベンに渡された。

A. A ticket was given to Nora by Ben.は文法的には正しいが、「ベンからノラに渡された」という意味になる。元の文とは渡す側と受け取る側が逆なので誤りである。

B. was giving は受動態の「be＋過去分詞」になっていない。given を使う必要がある。

C. A ticket は単数なので、were ではなく was を使う。

D. was given to Ben by Nora は、物を主語にし、受け手と行為者も正しく表している。

©ミライコーチング

演習問題

1

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

These pictures can (　　) on the school website.

A. be show

B. shown

C. be shown

D. are shown

2

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

All the desks must (　　) before class begins.

A. be moved

B. are moved

C. be move

D. moved

3

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

The results will (　　) on Friday afternoon.

A. be announce

B. announced

C. be announcing

D. be announced

4

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

These dishes should (　　) with care.

A. handle

B. be handled

C. be handling

D. handled

©ミライコーチング

5

次の英文と同じ出来事を、Yuna を主語にした受動態で表す場合、最も適切な文を選べ。

Mr. Ito gave Yuna a dictionary.

A. Yuna was giving a dictionary to Mr. Ito.

B. Yuna was given a dictionary by Mr. Ito.

C. Yuna was gave a dictionary by Mr. Ito.

D. Yuna were given a dictionary by Mr. Ito.

6

次の英文と同じ出来事を、A red umbrella を主語にした受動態で表す場合、最も適切な文を選べ。

Daichi gave Hana a red umbrella.

A. A red umbrella was given to Daichi by Hana.

B. A red umbrella was gave to Hana by Daichi.

C. A red umbrella were given to Hana by Daichi.

D. A red umbrella was given to Hana by Daichi.

7

次の英文と同じ出来事を、The children を主語にした受動態で表す場合、最も適切な文を選べ。

Ms. Lee gave the children some stickers.

A. The children were given some stickers by Ms. Lee.

B. The children were gave some stickers by Ms. Lee.

C. The children was given some stickers by Ms. Lee.

D. The children gave some stickers to Ms. Lee.

8

次の英文と同じ出来事を、A warm scarf を主語にした受動態で表す場合、最も適切な文を選べ。

Tom gave his sister a warm scarf.

A. A warm scarf was giving to his sister by Tom.

B. A warm scarf was given to Tom by his sister.

C. A warm scarf was given to his sister by Tom.

D. A warm scarf were given to his sister by Tom.

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

正解：C

主語の These pictures は、ウェブサイトに掲載される対象である。can を使った受動態なので、後ろに be＋過去分詞の shown を置く。

Pair 1

These pictures can be shown on the school website.

これらの写真は学校のウェブサイトに掲載できる。

A. be show の show は原形である。受動態では過去分詞の shown を使う。

B. shown だけでは、受動態に必要な be がない。

C. be shown は「be＋過去分詞」の形なので正しい。

D. are shown は助動詞のない受動態の形である。can の後ろに are は置けない。

2

正解：A

机は移動される対象であり、must は「〜しなければならない」という義務を表す。したがって、must be moved を使う。

Pair 1

All the desks must be moved before class begins.

授業が始まる前に、すべての机を移動させなければならない。

A. be moved は「be＋過去分詞」なので正しい。

B. are moved は助動詞のない受動態の形である。must の後ろには原形の be が必要である。

C. be move は move が原形のままであり、受動態の形になっていない。

D. moved だけでは be が抜けている。

3

正解：D

結果は発表される対象である。will の後ろに be＋過去分詞を置き、will be announced とする。

Pair 1

The results will be announced on Friday afternoon.

結果は金曜日の午後に発表される予定だ。

A. be announce は announce が原形のままなので誤りである。

B. announced は過去分詞だが、will の後ろに必要な be がない。

C. be announcing は進行形の形であり、「結果が発表される」という受動態を表していない。

D. be announced は「be＋過去分詞」なので正しい。

©ミライコーチング

4

正解：B

These dishes は扱われる対象であり、should は「〜するべきだ」という助言や望ましさを表す。受動態では should be handled とする。

Pair 1

These dishes should be handled with care.

これらの食器は慎重に扱うべきだ。

A. handle は原形だが、食器を主語にして「扱われる」と表すには受動態が必要である。

B. be handled は「be＋過去分詞」なので正しい。

C. be handling は進行形の形になり、食器が扱われるという受動態を表さない。

D. handled だけでは受動態に必要な be が抜けている。

5

正解：B

元の文では、Mr. Ito が渡す側、Yuna が受け取る人、a dictionary が渡される物である。

Yuna を主語にするため、gave を was given に変える。a dictionary は given の後ろに残し、渡した人は by Mr. Ito で表す。

Pair 1

Mr. Ito gave Yuna a dictionary.

伊藤さんはユナに辞書を 1 冊渡した。

Pair 2

Yuna was given a dictionary by Mr. Ito.

ユナは伊藤さんから辞書を 1 冊渡された。

A. Yuna was giving a dictionary to Mr. Ito.は「ユナが伊藤さんに辞書を渡していた」という意味になる。渡す側と受け取る側が逆であり、受動態でもない。

B. was given a dictionary by Mr. Ito は、受け取る人を主語にした正しい受動態である。

C. was gave の gave は過去形であり、受動態に必要な過去分詞ではない。

D. Yuna は単数なので、were ではなく was を使う。

6

正解：D

元の文では、Daichi が渡す人、Hana が受け取る人、a red umbrella が渡される物である。

物を主語にするため、A red umbrella を文頭に置き、was given に続けて to Hana を置く。行為者は by Daichi で表す。

Pair 1

Daichi gave Hana a red umbrella.

ダイチはハナに赤い傘を 1 本渡した。

Pair 2

A red umbrella was given to Hana by Daichi.

赤い傘が 1 本、ダイチからハナに渡された。

A. A red umbrella was given to Daichi by Hana.は文法的には正しいが、「ハナからダイチに渡された」という意味になる。元の文とは人物の役割が逆である。

B. was gave では過去形の gave を使っている。受動態では given が必要である。

C. A red umbrella は単数なので、were ではなく was を使う。

D. was given to Hana by Daichi は、受け手と行為者の関係を正しく表している。

7

正解：A

元の文では、Ms. Lee が渡す側、the children が受け取る人、some stickers が渡される物である。

The children を主語にすると、複数の主語に合わせて were given を使う。物を表す some stickers は given の後ろに残る。

Pair 1

Ms. Lee gave the children some stickers.

リーさんは子どもたちにシールを何枚か渡した。

Pair 2

The children were given some stickers by Ms. Lee.

子どもたちはリーさんからシールを何枚か渡された。

A. were given some stickers by Ms. Lee は、受け取る人を主語にした正しい受動態である。

B. were gave の gave は過去形であり、過去分詞の given を使う必要がある。

C. The children は複数なので、was ではなく were を使う。

D. The children gave some stickers to Ms. Lee.は「子どもたちがリーさんにシールを何枚か渡した」という意味になる。文法的には正しいが、元の文と渡す側・受け取る側が逆であり、受動態でもない。

8

正解：C

元の文では、Tom が渡す側、his sister が受け取る人、a warm scarf が渡される物である。

物を主語にする場合は、A warm scarf を文頭に置き、was given to his sister by Tom と続ける。

Pair 1

Tom gave his sister a warm scarf.

トムは自分の姉または妹に暖かいマフラーを 1 本渡した。

Pair 2

A warm scarf was given to his sister by Tom.

暖かいマフラーが 1 本、トムから彼の姉または妹に渡された。

A. was giving は受動態に必要な過去分詞の形になっていない。given を使う必要がある。

B. A warm scarf was given to Tom by his sister.は「トムが姉または妹からマフラーを渡された」という意味になる。元の文とは渡す側と受け取る側が逆である。

C. was given to his sister by Tom は、物を主語にし、受け手を to、行為者を by で正しく表している。

D. A warm scarf は単数なので、were ではなく was を使う。